

2013年も残りわずかとなりました。

本プロジェクトもプロジェクト最終年度ということで通常のプロジェクト活動に加えて、終了時評価や第2フェーズのプロジェクトに向けての準備などがありました。

日本からも、4人の短期専門家に来て頂きましたし、日本で開催されたセミナー及び研修にも多くの方々のご協力を得ることができました。心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

皆様もニュースでご存じだと思いますが、11月中旬から反政府デモが行われています（12月25日現在かなり静まっています）。我々のプロジェクトが属する社会開発人間安全保障省もデモ行進の通り道になり、同省の広場でデモ隊のスピーチが行われました。

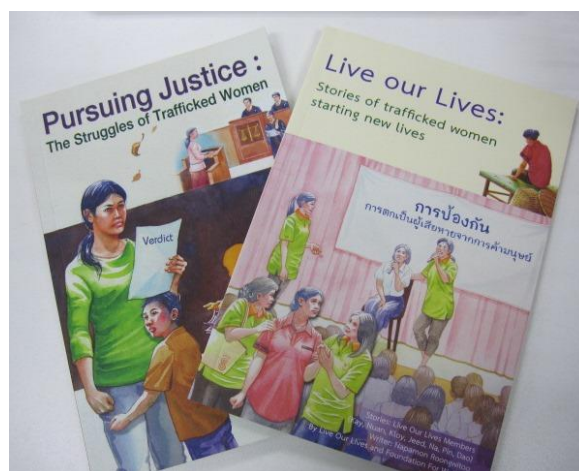


（3階の職場から撮った写真です。手前の黒いフェンスが社会開発人間安全保障省のフェンスです。見にくいと思いますが、道と橋の上にはデモ行進に参加する人々であふれていました）

この反政府デモにより、生活への影響などは特にありませんでしたが、10月末の日本での研修に参加したタイ人職員たちの成果発表会が

延期になったり、国際会議が延期になったりしました。

人身取引被害者の社会復帰の経験を集めた冊子「自分の人生を生き抜く」



本プロジェクトは、人身取引被害者たちの自助グループのLive Our Lives (LOL)を支援してきました。

LOLの支援を通じて、人身取引被害者を支援することが仕事であるMDTのメンバーに人身取引被害者の実態をよりよく知ってもらうために、昨年3月に「正義を求めて」という冊子を刊行しました。「正義を求めて」は海外で人身取引被害に遭ったタイ人女性が、タイに戻り、加害者を訴追するまでの実話が収められています。

今回刊行しました「自分も人生を生き抜く」という冊子は、海外で人身取引被害に遭ったタイ人女性たちが、国に戻ってどのように生活を再建していったかという実話で構成されています。

この冊子に登場するタイ人女性は全て、人身取引被害者の自助グループLive Our Lives (LOL)のメンバーで、海外からタイに戻った後

の心の動き、生活状況、そしてLOLに出会ってどのように自身に変化したかということが主に書かれています。

タイ語、英語、日本語版を作成しました。

チェンライ県に国境地域での人身取引対策に関するききとり

チェンライ県はミャンマーとラオスとの国境を有し、本プロジェクトは郡レベルのMDT強化を目指して、同県のチェンコン郡とウィエンケン郡で活動してきました。



(メコン川の対岸はラオス)

国境を超える人身取引の課題は中央政府の管轄下ですが、人身取引被害者の多くは国境付近で発見されています。例えば、ある県で、人身取引被害者ではないかと疑われるケースがあった場合は、まずは県内で認定作業を行います。もし人身取引被害者として認定されれば、中央の社会開発福祉局人身取引対策部が被害者の保護にあたり、被害者の出身国の中央政府と連携します。

しかし、国境を接する県同士も連携が必要ではないかということから、チェンライ県とミャンマーのタチレク県の間には Border Cooperation on Anti-Trafficking in Persons (BCATIP)が設

立されました。BCATIPを通して国境を有している2県が、県内の人身取引対策に関わる職員たちのネットワークが構築されています。

また、今回のききとりでは、チェンライ県はラオスのボーグオ県と協議を始めたとの情報を得ることができました。

チェンライ県では、ミャンマーやラオスから人身取引被害者ではないかと疑われるケースがある場合、すぐに県内の警察や短期シェルターと連携するシステムとなっていますが、ラオスやミャンマーは、国境でいかに人身取引と疑われるケースを阻止して被害者を保護するかが課題となります。とてもチャレンジングですが、これらの問題を国境を接する県同士で協力し合えば、人身取引被害者が減るのではないかと思います。

来年もよろしくお願い致します。 良いお年を！

本プロジェクトは2014年3月に終了します。残すところ3か月ですが、引き続きよろしく願いいたします。



(右から百生チーフアドバイザー、石黒業務調整員、プロジェクトアシスタントのプーンとジュン)

同通信はプロジェクトの進捗状況及び関連情報をお知らせする目的でありJICAやカウンターパートの見解を示すものではありません。禁転載。